授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアI	講義・演習	金山聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	１学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

在宅・施設で生活する高齢者や障害者が必要とする医療的ケアを医療職との連携のもとに安全かつ適正に実施する基礎的な知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

社会福祉士及び介護福祉士法の改正と医行為、安全な療養生活、喀痰吸引、経管栄養、救急蘇生法、感染予防、健康状態の把握について学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１．医療的ケアに関する制度、介護職の専門的役割と倫理について理解することができる。

２．療養生活を安全に送るために必要な知識と基礎的な技術ついて理解することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１．介護職の専門的役割と医療的ケア

２．保健医療に関する制度と医療行為に関する制度

３．医療的ケアの安全な実施の基礎的知識①（安全管理体制、リスクマネジメント）

４．医療的ケアの安全な実施の基礎的知識②（ヒヤリハット・アクシデント）

５．感染予防①（基礎的知識）

６．感染予防②（療養環境の清潔）

７．感染予防③（消毒と滅菌）

８．感染予防④（スタンダード・プリコーション）

９．健康状態の把握①（基礎的知識）

10．健康状態の把握②（観察）

11．健康状態の把握③（バイタルサイン）

12．健康状態の把握④（急変状態）

13．救急蘇生法①

14．救急蘇生法②

15．終講試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１５ 「医療的ケア」第２版　中央法規出版	「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準じて実施するため、5 分の 4 以上の出席とする。 試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアII	講義・演習	金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２学年　前期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

在宅・施設で生活する高齢者や障害者が必要とする医療的ケアを医療職との連携のもとに安全かつ適正に実施する基礎的な知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

喀痰吸引、経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順を理解できる内容とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

安全かつ適正に喀痰吸引及び経管栄養を実施するための基本的な知識、実施手順方法を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

<u>高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論</u>

１　呼吸のしくみとはたらき、喀痰吸引の必要な状況

２　喀痰吸引の方法と実施上の留意点

３　吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応

４　呼吸器系の感染と予防

５　喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認

６　急変・事故発生時の対応と連携

７　喀痰吸引の実施手順、記録と報告

<u>高齢者及び障害児・者の経管栄養概論</u>

８　消化器系のしくみとはたらき、経管栄養が必要な状況

９　経管栄養の方法と実施上の留意点

１０　経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応

１１　経管栄養に関係する感染と予防

１２　経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と連携

１３　経管栄養の実施手順、記録と報告①

１４　経管栄養の実施手順、記録と報告②

１５　試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１５ 「医療的ケア」第２版　中央法規出版	「喀痰吸引等実施要綱」に準じて実施するため、5 分の 4 以上の出席とする。 試験で 60 点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
医療的ケアIII	講義・演習	金山聡子・丸山保子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

在宅・施設で生活する高齢者や障害者が必要とする医療的ケアを医療職との連携のもとに安全かつ適正に実施する基礎的な知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

安全な喀痰吸引、経管栄養の実施のために、確実な手技を習得する内容とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　医療的ケアを実施する際の手順、留意点を述べることができる。

２　安全・適切に喀痰吸引、経管栄養を実施することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１　口腔内・鼻腔内吸引および気管力ニューレ内部の喀痰吸引の実施手順

２　喀痰吸引の実際①

３　喀痰吸引の実際②

４　喀痰吸引の実際③

５　喀痰吸引の実際④

６　喀痰吸引の実際⑤

７　喀痰吸引の実際⑥

８　胃ろう（腸ろう）による経管栄養、経鼻経管栄養の実施手順

９　経管栄養の実際①

１０　経管栄養の実際②

１１　経管栄養の実際③

１２　経管栄養の実際④

１３　経管栄養の実際⑤

１４　経管栄養の実際⑥

１５　終講試験（筆記試験）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座　１５ 「医療的ケア」第２版　中央法規出版	「喀痰吸引等実施要綱」に基づき実施するため、5分の4以上の出席とする。 筆記試験で60点以上、かつ演習で5行為すべてに合格した者に単位を認定する。